

## アベ首相の国会での答弁とその態度

5月29日の参議院において総理と民主党福山議員との集団的自衛権に関する議論を途中からみた。アベ総理は福山議員の質問に対して、それこそ訳の分からぬ言葉を並べている。しかし、並べられた単語から作られる文は日本語としてとうてい理解できるものではない。「・・・でありまして」「・・・でございますから」「・・・を今検討している次第であります」などを並べたまとまりの無い答弁である。訳の分からぬ答弁が終り、大臣椅子に戻ると総理の上半身はもう呼吸が乱れ、胸元は息遣いで激しく揺れ動いている。そのまま倒れてしまうのではないかと心配になるくらいである。このような状況では野党議員の質問に答えるだけの思考能力を働かせる状態にないことは確かである。そして福山議員が引き続き質問の答弁に立っているとき、総理は相手を馬鹿にするかのように大臣席で「にやり」と笑う。これが案外多い。昨日の、民主党の岡田議員との論戦のときもそうであった。TV写りを気にしてか、余裕があるかのようにふるまっている。そんなことよりもっと真剣になって欲しい。議論中に倒れても良い。事は重大な件を議論しているのだ。時間は無駄に進み、また総理が答弁に立ち、訳の分からぬ答弁をする。それに対して福山議員が頭を横に振っていると（TVには映っていないので分からぬが）、それに対し腹を立てた総理は「頭を振っていないで人の意見を聞きなさい」とわめく次第である。声を出さないのだから、頭を振るくらい良いではないか。一方で、アベ総理は福山議員が質問しているときに、大声を出して野次っているのである。一国の総理大臣のこの態度は、どうなっているの？これが総理答弁の現実なのである。このような状況が一般の視聴者が見られる時間帯のニュースで放映されることは皆無である。

そういえば、昨日の岡田議員との論戦中、総理の野次に対して「一国の総理大臣なのだからもっとふところを広くすべきだ」と岡田議員から叱責を受けるというお粗末な出来事もあったが、今や飛ぶ鳥も落とす勢いの総理のこういった状況を映像で報道するマスメディアは無い。なお相手はまるで小学生のようであり、その意味で「叱責」である。

国会には議事録を取っている方がいらっしゃる。アベ総理の答弁の筆記は非常に苦勞するのではないかと思う。日本語になっていないからである。一度、総理の答弁をそのまま文字に起した記録を公開して欲しい。

そのすぐ後のお昼のNHKニュースでは、アベ首相の答弁の映像だけを3から4回流し、首相の意見だけを報道するありさまである。何と嘆かわしいことか・・・

追記) 先日の集団的自衛権について総理があげた例で、日本周辺の有事の際、日本人を輸送するアメリカ艦船に対する防護ですが、軍事評論家で元朝日新聞記者の田岡俊次氏によれば、敵国からの救出作戦でアメリカ軍が行う救出の順序は

①アメリカ人、②グリーンカードを持った人、③イギリス人などアングロサクソン系、・・・

アジア人

だそうです。これでは日本人が救出されるのは何番目になるか分からない。そんなものを待っているわけにはいかないのであるから、日本の自衛隊が真っ先に日本人を救出に向かうことになるだろう。つまり、狙われるのは日本の自衛隊の艦船になるだろうから個別的自衛権の問題になる。

また、(たぶん)多くの憲法学者の見解では「日本人が乗船するアメリカ艦船への攻撃」に対しては「日本人が乗船している」という事から個別的自衛権で対応できるということである。